

令和2年1月8日（水）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担当：久高、岡野

電話：098-866-2215

インフルエンザの流行状況について ～注意報発令～

1 概要

感染症発生動向調査による本県のインフルエンザ定点あたりの報告数が、2019年第52週（12月23日～29日）に11.17人（定点医療機関58カ所、報告数648人）となり、インフルエンザ注意報発令基準である定点当たり報告数10人を超えましたので、注意報を発令します。

本県では第32週に注意報発令、第36週に警報発令、第43週に警報解除となり、その後患者報告数は減少傾向にありましたが、第47週より再び増加に転じておりました。

なお、第52週に報告されたインフルエンザウイルスの型別割合は、A型が76.9%、B型が17.9%となっています。年齢別では、5～9歳が121人（18.7%）と最も多く、次いで1～4歳102人（15.7%）、30～39歳80人（12.3%）の順となっています。

例年インフルエンザは1～2月に流行のピークを迎えます。今後、流行の拡大を抑えるためにも、マスコミの皆様には「手洗い」「咳エチケット」「予防接種」等の感染予防策の周知について、改めてご協力いただきますようお願いします。また、県民の皆様におかれましては、引き続き感染予防策を徹底していただきますようお願いします。

※インフルエンザ流行についての情報は、以下のサイトもご参照下さい。

県ではインフルエンザの予防及び蔓延防止を図るため、別添チラシを作成し、関係機関へ配布しております。チラシは、沖縄県感染症情報センターホームページからダウンロードできます。

○インフルエンザ関連情報

沖縄県感染症情報センターホームページ

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/influ.html>

厚生労働省インフルエンザ総合ページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/index.html

国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページ

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

○沖縄県作成の予防啓発チラシ（PDF）

https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/documents/2018_leaflet.pdf

2 インフルエンザの流行状況

感染症発生動向調査事業において県内のインフルエンザ 58 定点医療機関（小児科定点:34、内科定点:24）の協力を得て、患者情報を週単位で収集し、全国約 5,000 カ所の定点情報と併せて分析し、県民及び医療機関に情報を提供しています。

1) 定点当たりの患者報告数（直近の 7 週間）

	週	46 週	47 週	48 週	49 週	50 週	51 週	52 週
		11/11~ 11/17	11/18~ 11/24	11/25~ 12/1	12/2~ 12/8	12/9~ 12/15	12/16~ 12/22	12/23~ 12/29
県	患者数	149	187	223	257	331	427	648
	定点当	2.57	3.22	3.84	4.43	5.71	7.36	11.17
	流行 レベル							注意報
全 国	患者数	9,107	15,390	27,393	47,200	77,425	105,221	
	定点当	1.84	3.11	5.52	9.52	15.62	21.22	

[参考] 感染症発生動向調査システム上の警報・注意報の発令基準値

流行注意報	: 定点当たり 10 人以上
流行警報	: 定点当たり 30 人以上
警報終息	: 定点当たり 10 人未満

第 52 週における保健所別定点あたり患者報告数は、那覇市保健所が 15.33 人で最も多く、次いで南部保健所 13.43 人、中部保健所 9.80 人、八重山保健所 9.00 人、宮古保健所 7.75 人、北部保健所 4.40 人の順となっています。

2) 県内の型別患者報告数（直近の 7 週間）

週	46 週	47 週	48 週	49 週	50 週	51 週	52 週
	11/11~ 11/17	11/18~ 11/24	11/25~ 12/1	12/2~ 12/8	12/9~ 12/15	12/16~ 12/22	12/23~ 12/29
A 型	125	146	198	201	264	300	498
B 型	0	18	2	34	50	108	116
不明	24	23	23	22	17	19	34

3) 年齢階級別報告数（第 52 週）

年齢群	0 歳	1~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60 歳以上	合計
患者数	13	102	121	65	26	53	80	70	55	63	648
(%)	(2.0)	(15.7)	(18.7)	(10.0)	(4.0)	(8.2)	(12.3)	(10.8)	(8.5)	(9.7)	(100)

3 県民の皆様へのお願い

昨年8～10月の流行時に比べて、B型インフルエンザの検出割合が高くなっています。すでにA型インフルエンザにかかったという方でも、今後B型インフルエンザに感染し発症する可能性がありますので注意が必要です。

小児がインフルエンザにかかった際は、抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無や種類にかかわらず、異常行動が報告されています。保護者の方は、小児・未成年者がインフルエンザにかかり自宅で療養する場合は、少なくとも発症から2日間、1人にしないよう配慮をしてください。

また園児および生徒の皆様は、インフルエンザを発症した後5日を経過し、かつ、解熱したあと2日（幼児は3日）を経過するまで登園及び登校は控えてください（沖縄県では、登園及び登校に際してインフルエンザ治癒証明書を求めることは控えるようお願いしています）。

県民の皆様におかれましては、「手洗い」「咳エチケット」「予防接種」などの感染予防策の徹底を引き続きお願いします。

○インフルエンザの感染予防策

（流行時の予防方法）

- ① 食事の前や帰宅後には、必ず「手洗い」をしましょう。
- ② バランスよく栄養を摂取し、十分な睡眠をとりましょう。
- ③ 「咳エチケット」を実行しましょう。
- ④ 室内の換気に気をつけ適切な湿度を保ちましょう。
- ⑤ インフルエンザが流行しだしたら、不要不急の外出を避けましょう。
- ⑥ インフルエンザの「予防接種」を受けましょう。
 - ・ワクチン接種を行うことで、ある程度の発症予防効果と、罹患しても症状の重症化を抑えることができると考えられています。
 - ・ワクチンの予防効果が期待できるのは接種後2週から5ヵ月程度と考えられています。
 - ・ワクチンによりA型2種類、B型2種類に対する免疫の獲得ができます。すでに罹患された方でも、別の型への感染予防のために接種することが望ましいです。なお、罹患した場合は治癒後2～4週間程度の間隔をあければ予防接種ができるとされています。

○インフルエンザに罹ってしまったら

- ① かかりつけ医にまず相談、受診しましょう（救急医療をつぶさない）。
- ② 感染を広げないために、会社や学校を休み、安静にしましょう。
- ③ マスクを着用し、咳やくしゃみをする時は「咳エチケット」を守りましょう。